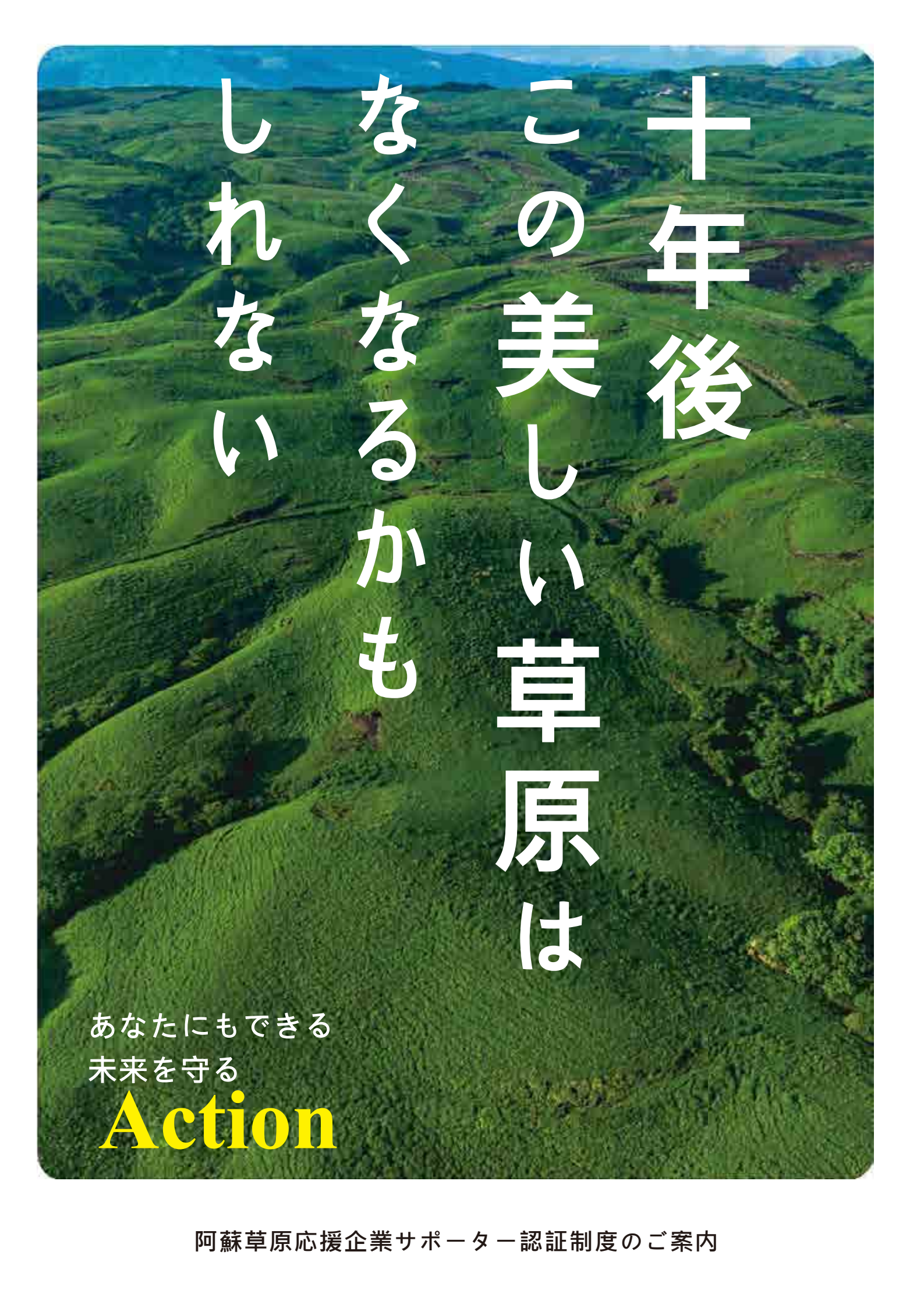




十年後
この美しい草原は
なくなるかも
しれない

あなたにもできる
未来を守る

Action

阿蘇草原応援企業サポーター認証制度のご案内

自然の力だけでは
維持できない。

代々人の手で 守られてきた 阿蘇の美しい 大草原

そもそも雨が多く温暖な日本の気候では
放置された草原は、やがて林や森へと姿を変えてしまいます。
つまり、草原は自然の力だけでは維持することはできません。
では、なぜ現在まで阿蘇の草原が維持されているのかというと、
人と自然が寄り添い、歩んできた歴史があるからです。
人々は暮らしを支える貴重な資源である草原とともに
私たちが想像する以上の長い時間とともに生きてきたのです。

阿蘇の草原を維持するために続けられてきた 3つの営み

営み
その1



春の芽吹きを呼ぶ

野焼き

毎年 3月頃に行われる野焼き。草原に樹木が
繁茂することを防ぎ、新たな芽吹きが促さ
れます。焼けた地面から草花の新しい芽が
すぐに出て、草原の風景を再び緑に変えて
いきます。

営み
その2



刈られた草は
様々な用途へ

採草

主に冬場を畜舎で過ごす牛馬の餌や敷料
として必要な干し草を確保するために行
います。阿蘇地方の干し草刈りは、9月 から始
まり 10月下旬まで続きます。

営み
その3



牛たちが草を食む

放牧

放牧によって、牛馬が草を食べ足で踏み続ける
ことで、シバの生える短草型草原が保たれます
。広大な緑の草原で褐色の牛がのんびりと草を
食む姿は、阿蘇ならではの美しい風景といえ
ます。

1000 年以上続いてきた伝統も、いま存続の危機に瀕しています

「この先 10 年以上野焼きを継続できる」と答えた牧野組合は全体の約 1/4 しかいません。

このままだと阿蘇の草原はなくなってしまいます。

草原を守り、伝えていくために

今あなたの助けが必要です

阿蘇の草原を守るために 企業サポーター 募集しています

熊本県の「悠久の宝」である阿蘇の雄大な草原は、さまざまな動植物を育むだけでなく、水源涵養や炭素の固定機能など重要な役割があり、千年以上の間、放牧や野焼きなど地元の人々の生業により維持されてきました。

しかし、現在は野焼きの担い手不足が進んでおり、現状としては、地元以外からの支援がなければ草原を維持することが難しくなっています。

そこで、熊本県では阿蘇の草原維持に積極的に取り組む企業・団体を支援し新たな草原保全の担い手や草原を守る資金を確保するために生まれたのがこの認証制度です。



▲野焼きへの支援



▲防火帯（輪地）づくりへの支援

みんなで守ろう！

阿蘇草原応援 企業サポーター 認証制度



認定されると
こんなメリットがあります

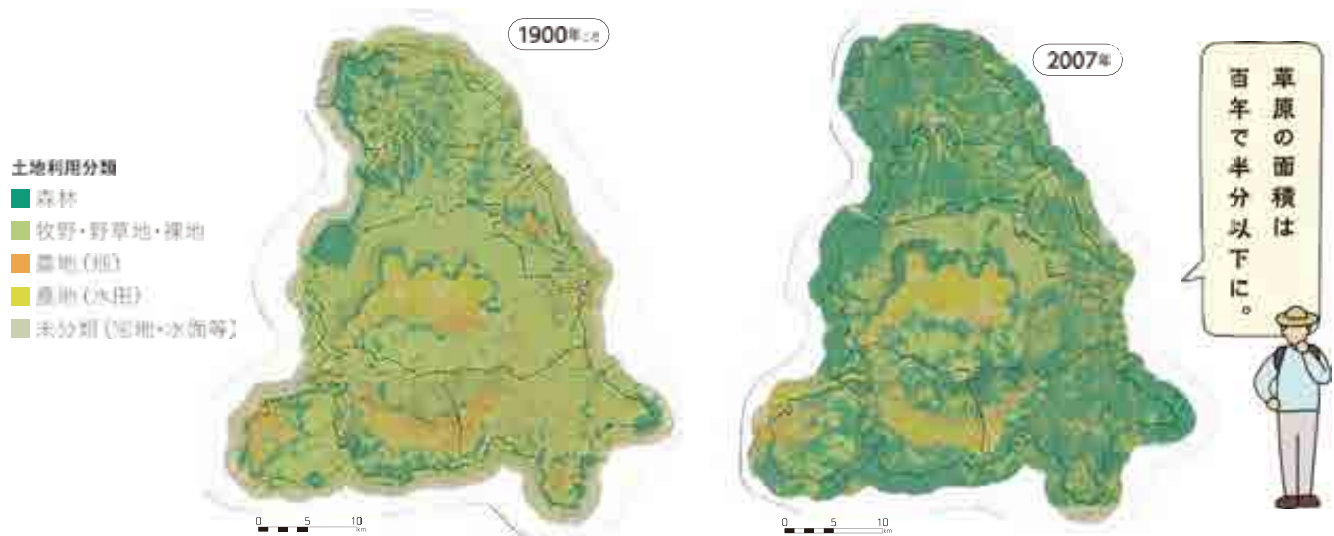
- ① 草原保全に関わる費用が支援されます。（上限 15 万円）
- ② 熊本県ホームページや県が運営する SNS 等の広報媒体に御社名や取り組みが掲載されます。
- ③ 阿蘇草原応援企業 サポーターロゴマークを企業・団体のホームページや名刺などに使用できます。
- ④ 熊本県 SDGs 登録制度の「SDGs 達成に向けた取り組みチェックリスト」の項目を満たします。
※「30 緑の保全」、「43 地域への参画」
※熊本県 SDGs 登録事業者に登録された建設業者は
技術事項評価項目で加点される予定です。

サポーター認定されるためには？

詳しくは P.7 をご確認ください



阿蘇の草原が危ない



阿蘇の草原が減っている

阿蘇の草原は、毎年の野焼きや、牛の放牧、飼料のための採草により維持されています。この草原は一説には1万年以上前から阿蘇に存在したと言われており、阿蘇ならではの生態系が維持されてきました。しかし、時代の変化とともに近年面積が減少してきています。阿蘇の7市町村の草原面積は過去100年の間で半分以上になっているとされ、近年もその減少が続いています。その理由としては1950年代以降の耕運機の普及をはじめとした農機具の機械化により牛馬の必要性が低下したことや化学肥料の普及により緑肥の投入が不要になったこと、茅葺屋根の減少や牛肉の輸入自由化による放牧頭数の減少などが影響していると言われています。

阿蘇草原の危機

2016年の熊本県の調査において「10年以上野焼きなどの維持管理が継続可能」と答えた牧野のみが30年後も草原の維持が可能と仮定した場合、草原面積が今よりもさらに6割減少するという予測が考えられます。地元の方だけでなく、多くの人の力を借りながら、草原を将来にわたって維持していくことが求められています。



熊本県の調査に際しての地図例(2016年)
● 草原面積



30年後の草原維持(10年毎)の予測(2016年調査)
● 草原面積



実は野焼きをすると炭素が地中に固定される

最近の研究によると、阿蘇の草原の土壌には、世界に類を見ない極めて膨大な炭素が蓄積されていることが分かってきました。この炭素は、野草の根などの分解物や、野焼き後に残る炭(主にイネ科植物の地上部が燃えた微粒炭)に由来していて、長期にわたって蓄積され続けてきました。

野焼きを行っている草原の1年間のCO₂吸収量は
1 ha



あたり6.9tとされていますが、これを草原全体で考えると阿蘇郡市の全世帯が1年間に排出するCO₂量の1.7倍に相当する炭素を草原が固定していることになります。野焼きによって排出される温室効果ガス(二酸化炭素やメタンなど)と比較しても、CO₂を吸収する効果のほうが大きいことが分かってきました。

野焼きによる草原の維持は、地球規模の課題である温暖化防止に貢献している可能性が高いことが明らかになってきています。



野焼きが繰り返し行われ続けるからこそ、土壌中に炭素が蓄積され続けるよ。

草原を知る

阿蘇の草原の恵み

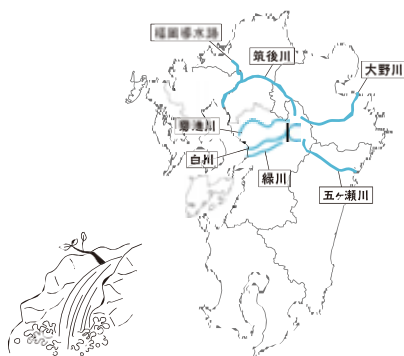
実は森林よりも草原のほうが地下水を育んでいる

阿蘇地域は、白川や筑後川などの6本の一級河川の源流域となっています。この6河川の流域と、福岡導水路を通じて筑後川から水が供給される福岡都市圏も加えると、流域人口約500万人の水を支えており「九州の水がめ」と呼ばれています。

草原や森林は、雨水を土の中で貯え、ゆっくりと河川に送り出すことで、大雨の時でも一度に水を放出することなく、また、渇水時期でもゆっくりと水を放出し続けることができますが、この機能のことを水源涵養機能といいます。

阿蘇地域における最新の研究によって、年間の蒸散量

(根から吸い上げた水を、大気中へ水蒸気として放出する現象)が、スギ・ヒノキ(約250mm)に比べて、ススキ(約130mm)などの草原の植物の方が小さいことが判明しました。また、遮断蒸発(枝葉にぶつかった雨水がそのまま蒸発する)量も、草原の方が森林よりも小さいとされています。つまり、阿蘇の草原は優れた水源涵養機能を有していることが示唆されたのです。



水源涵養

生物多様性

生き物の棲みかを守る

阿蘇の草原は、さまざまな生き物が生育・生息できる環境を育んでいます。阿蘇の草原に生育する植物は約600種とされています。の中には、阿蘇地域や国内の限られた地域にしか生育していない希少な絶滅危惧種のヒゴタイ、ハナシノブなど、九州が大陸と陸続きであったことを物語る植物もあります。さらに、草原の植物は多様な昆虫や野鳥が生息できる環境を育んでいます。特に阿蘇は昆虫類の宝庫であり、熊本県に生息するチョウ類約117種のうち109種が阿蘇に生息しており阿蘇はチョウの楽園とも言われています。

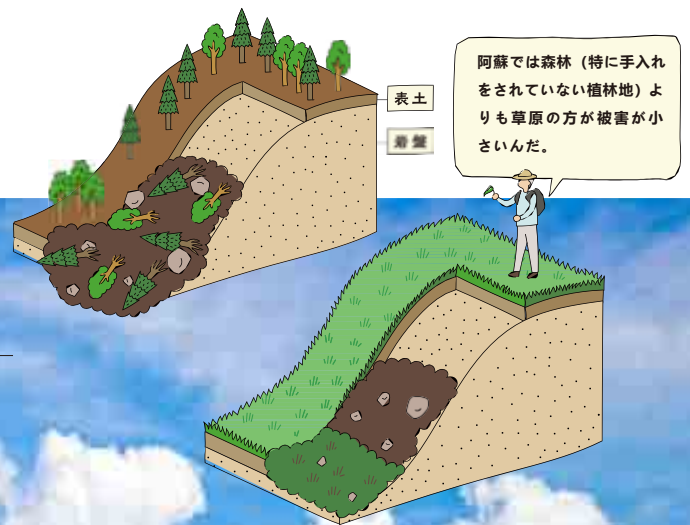


土砂災害の被害を緩和する

阿蘇地域の大部分は、火山灰が堆積した土壌であり、特にカルデラ内壁は、大雨や大地震により急斜面の表土が崩れ、土砂災害が発生しやすい地域になっています。これを阿蘇の人々は、ヤマシオ（山沙）、ヤマツナミ（山津波）と呼んで恐れてきました。阿蘇地域においては、火山灰土壌の下に固い火山性の岩盤があるため、木の根の張りは浅くなり、森林が崩壊を防げない場所も少なくありません。また特に手入れが行き届いていない植林地が崩れた場合は、土砂と樹木が併せて崩壊し被害が甚大化する危険性が高まりますが、草原の場合は崩壊土量が少なく、被害は小さく済むことが、地元の経験則で知られています（ただし、

最近の研究では、山裾の植林地は、土砂のせき止めに貢献し、集落への被害を軽減する可能性があることも示唆されています）。

阿蘇地域の地形や地質の特性上、草原と森林が構成する土地利用は、災害時の被害緩和にもつながると考えられます。



阿蘇草原と観光

阿蘇草原の美しい姿は、多くの観光客を惹きつけ、観光産業に恩恵を与えてきました。草原の観光といえば、これまではドライブや景勝地を「見る」観光でしたが、近年は、牧野組合の許可のもと、ガイド付きで牧野に入り、散策や自転車などで草原を楽しむ体験型の観光も増えてきています。また、体験の料金に牧野保全料を含めるなど、観光利用を草原の維持管理につなげる取り組みも行われています。



阿蘇草原応援企業サポーターとしてできることに
寄付や募金という方法もあります

お寄せ頂いた寄付金の使い方

主な寄付先は 3 つあります

ハードへの支援

[VIEW MORE](#)



① 熊本県企業版ふるさと納税（税制優遇（寄付金控除）あり）

野焼きの再開支援/野焼きの後継者育成/防火帯の整備など



ボランティアへの支援

[VIEW MORE](#)



② 公益財団法人阿蘇グリーンストック（税制優遇（寄付金控除）あり）

野焼き支援ボランティアへの支援（活動経費・道具の購入）



地域住民への支援

[VIEW MORE](#)



③ 阿蘇草原再生募金 繁殖あか牛の導入支援/環境教育の実施

社会貢献だけでなく、企業にとってのメリットも

あなたも草原を守るサポーターに。

「行動による支援」と「金銭的支援」2つの方法があります。

…… 認定対象者 ……

01 草原維持のボランティア活動に参加する



【認定要件】

草原維持のボランティア（野焼き支援ボランティア等に参加する企業・団体）

- これまで（過去3年間程度）、草原維持のボランティアに企業・団体で参加した実績があり、本年度以降もボランティアに参加する意思がある企業・団体
- これまで草原維持のボランティアに企業・団体で参加した実績はないが、公益財団法人阿蘇グリーントックが実施する野焼き支援ボランティア初心者研修会を受講した上で、ボランティアに参加する企業・団体

「草原維持のボランティア活動に参加される企業・団体」については、活動に必要な以下の経費が支援されます

支援対象経費（例）

- 交通費（レンタカー代、バス借り上げ代等）
- ボランティア初心者研修会費、保険加入費
- 備品（ヘルメット、ゴーグル、作業着、軍手、安全靴等）
- その他、草原維持のボランティア活動に必要と認められる経費

支援上限額

15 万円/団体

02 寄付や募金などを行う



【認定要件】

草原維持の募金（阿蘇草原再生募金等を行う企業・団体）

- 草原維持の募金を企業・団体で年額10万円以上行った実績があり、本年度以降も募金を行う意思がある

**阿蘇草原応援企業サポーターとして
たくさんの企業・団体が
ボランティア活動 / 募金に積極的に取り組むことが
阿蘇の草原維持につながります**

次ページより、阿蘇草原応援企業サポーターに
認定されている企業様をご紹介します

NEXT ▶

01



代表取締役社長

永里 敏秋様



昔から身近にあった野焼きと、社員の地域に貢献したいという気持ち

当社を含む明治グループでは、それぞれの会社が特色ある SDGs 活動をしているので、当社もグループ企業に負けないように、むしろグループの先頭を走るくらいの気持ちで活動しています。幼いころ益城町に住んでいた私は西原村の野焼きが身近な存在としてあり、野焼きには以前から興味がありました。

そんな中、社内で野焼きに参加している人物を探すと、野焼き支援ボランティアに参加している一人の社員と知り合いました。当時は社員の参加人数は数人程度の参加だったと聞いていますが、当社が SDGs 活動を推進している背景もあって現在では 50 名以上が参加しています。野焼きに参加している社員と交流する時に改めて感じるのですが、当社は医薬品を製造する会社ということもあってか、人のために役に立ちたいという気持ちの人間が本当に多く、そうした社員と一緒に汗を流せるのはとても気持ちがいいですね。

見た目からくる野焼きのマイナスイメージと客観的データ

阿蘇の一斉野焼きの際には規模が本当に凄く、ボランティアも大勢必要と聞いていますので、そういう時に私も含め、当社からももとまってボランティアとして参加できたらいいなと思っています。

野焼きをよく知らない人からは「あんなに草原を焼いて、なんて CO2 を出しているんだ」と言われたりもしますが、実は逆に新しい芽吹きをうながして CO2 を抑制しているのです、地球温暖化問題にも良いことなんですよ。見た目だけのイメージの話と、データに基づく事実はまったく違い、野焼きは様々な環境問題を解決する手段としても必要ですよ。

日本一の面積を誇る、綺麗な阿蘇の草原のために

公益財団法人阿蘇グリーンストックにはこのような情報発信を頑張っていただきたいです。最近では環境に対して興味がある人は若い人たちも含めて多いですから、地下水の恵みや CO2 抑制など、野焼きの効果や重要性を訴えていけば支援してくれる人や企業は増えるのではないかと思います。

活動から生まれる地域との縁

地域の人と接点が持てるのも魅力です。縁あって阿蘇の耕作放棄地を貸していただいたので、野菜づくりにも取り組み始めました。そういうつながりができたのもボランティア活動をしていたからだと思います。借りた畑で野菜を作って BBQ するのもよし、収穫した野菜を子ども食堂等に配ったりすればさらに社会貢献が出来ます。

草原保全や、認証サポーター制度への期待や評価

新たに阿蘇草原応援企業サポーター制度の支援で社員が使う野焼きの安全装備品など様々な道具を購入することができました。それもあって参加者も増えてきていると感じます。SDGs ということで、私は色んなところで講演させていただく機会があり、我々の事業の話は勿論するんですが、野焼きに関しても、色んな企業の経営者に対しても、「一緒にやりましょうよ」みたいな話をし



てるんです。

阿蘇の草原は世界的にも魅力がありますよね。緑の草原は人の手がかかっているから維持できているというのは、すごいことです。ただ、地元だけの活動は限界がきているという問題も聞きます。何もやっていないとやぶになってしまうんだ、人間の力で草原を作り出しているんだっていうのをもっとアピールして、阿蘇の草原を残していきたいですね。

VOICE

社員として参加することで見えてきた活動のすばらしさ



上田 さん

野焼きに参加して良かったことはいくつもありですね。一番感じるのはストレス発散というか、世の中、社会の役立つことをしているという達成感は何物にも代え難いと思います。しかも、野焼きに行けば社内ではなかなか知り合えない方ともコミュニケーションを取れる。いろんな部署からボランティアという同じ目的で集まるので、すぐに打ち解けて本来の業務にも活かすことができるのはボランティアならではの効果だと思っています。また、社長自らが参加されるので、社長と一緒に作業ができるというのも新鮮ですね。

日頃、社長と業務の中で話す機会は一部のの人にしか無いのですが、野焼きにすればフラットに話すことができるんです。それがみんな嬉しいんですよ。おんなじ土俵で目的、達成感。それがスゴいんです。

02



代表取締役社長

福元 秀典様



創業時から脈々と受け継がれた、 地域共生への想いが ボランティア活動につながっています

私たちが普段取組む業務ではDXに加え、道具による革新も進めています。若者に肉体労働をさせるというのは時代に逆行していると思いますし、安全や作業効率的にもそういった3k職種のような仕事は道具や技術で乗り越える必要があります。そのため、以前から新しい道具や技術の活用を進めてきました。草原保全に関しても、肉体労働が多いのでシスケンの技術でカバーできないかという思いがずっとあり、2022年にはラジコン草刈り機を寄贈させていただきました。

また、技術的な部分でボランティア活動に参加できるようになると、もっと取り組む社員が増えるのではないかと、という期待もあります。

会社が担うプラットフォームとしての地域貢献

我が社の地域貢献は、無理に手広くやる必要はないと考えています。従業員からも地域貢献がしたいという意見はありましたが、具体論がないとなかなか参加しづらいので、会社がそういう地域貢献ができるフィールドを用意してあげる必要があると考えています。

マッチングギフトという言葉がありますが、会社が半分、社員が半分寄付を出し合い、社員の声を中心にどこをお手伝いするか決めていきます。会社が決めたことに乗っかるだけでは実感が伴わないので、社員の声をベースに、野焼き支援に加え福祉団体やそこにお世話になるお子さんを抱えた社員がいれば優先的に選んでいます。そこに他の社員の方の気持ちも乗せると自分が投影されて、社会貢献をやっている気持ちになってもらえるんじゃないかと、会社が考えを汲んだ上で、

徐々に様々な活動に膨らませてきました。社長が代替わりしても持続できるように、地域や社会と共にいうことを基本的な考えとして活動を継続しています。

熊本出身の方達にこそ気づいてもらいたい、阿蘇の素晴らしさ

私は転勤や出張が多く、全国色々なところの景色を見ましたが、阿蘇の雰囲気や味わえるところは全国を探しても他にはないです。阿蘇の景色そのものが熊本の財産ですよ。

ところが意外と熊本に生まれ育った人は、阿蘇の草原に関しても灯台下暗しと言いますが、案外詳しく知らないんです。だから「阿蘇は素晴らしい」という言葉は出るんですが、本当に実感があるのかな？という気がしています。一方、県外から来た人のほうが「阿蘇はスゴいよねえ！」と実感を持って言えるんですが、当社は圧倒的に熊本出身の社員が多い。だから本当に熊

本の財産へと目を向けさせたいという気持ちもあり、阿蘇の野焼きの支援をしているんです。日本どころか世界の宝といってもいいような替えのきかない素晴らしさを廃れさせないために、私たちの規模でできることは少しだとしても、従業員の熊本のために貢献したいという気持ちを実行できる場として、ちょうど良いのかなと思っています。



03



取締役管理本部長 / 経営戦略担当
レクサス事業部長 / モビリティサービス部長

中川 大様



排気ガスによる環境問題への危機意識。 そこから生まれた、「ハイブリッド基金」

やはり自動車と環境問題は切り離せません。車の排気ガスによる環境への影響という話は以前からある中で、環境に配慮した車の先駆けとして、世界初の量産ハイブリッドカー「プリウス」の販売が始まりました。

ハイブリッド車を販売することが結果として環境もより良くなるということで、プリウスの販売に力を入れていこうという熊本トヨタの方針がありました。そしてそこから一歩先に進んで取り組みとして011年から2年間、ハイブリッド車販売1台につき1000円を基金として積み立てて東日本大震災への復興への寄付を行いました。

2013年度からは阿蘇の草原の維持が大変だという話があり、阿蘇草原再生協議会に寄付を

始めさせていただいたのが阿蘇での取り組みの始まりです。

熊本トヨタがハイブリッド車を売ることによって環境も良くなり、更にその中の売上を環境のために活用していただく。それが、熊本が世界に誇る阿蘇の草原のためになるのだと思っています。2013年に会長が強い思いで初めてからずっと続けてきた寄付は、積み積み来年には1000万円になるかというところまで。

発信する意義と、巡る喜びの輪

ここ数年は特に地域貢献の活動などに力を入れ、積極的に発信もしています。

熊本トヨタの名前がメディアに出ると社員やその

家族が喜んでくれ、お客様からも「熊本トヨタさんは最近よくニュースにでてるねえ熊本トヨタさんは色々しよるみたいね！」などお褒めの言葉をいただく機会が増えてきました。以前は営業部にいましたのでこのような寄付に対する費用対効果なども気になっていましたが、こういった活動を1年、2年、3年と続ける事で、お客様からお褒めの言葉や支持していただく声を直にいただくことも増え、こういう取り組みもお客様に支持されていて、何か良い事や社会貢献をしたことで喜んでもらった結果が巡り巡って自分のところ(会社)にも返ってくるんだという繋がりを感じています。



社会貢献活動で喜んでもらった結果がお客様からの支持にも繋がる

阿蘇の草原をまもるために 「阿蘇草原応援企業サポーター」に ぜひご登録ください

サポーター認定を受けるまでのフロー



01 活動・募金

草原維持のボランティアや
募金を企業・団体で行い、
認定要件を満たします



02 申請

認定要件を満たした
企業・団体は、認定の
申請を行います



03 認定

「阿蘇草原応援企業
サポーター」として認定し、
認定証を交付します



04 広報

熊本県ホームページや
県が運営する SNS 等に
掲載します

阿蘇草原応援企業サポーター制度の詳細や
申請書などのダウンロードはこちらのサイトよりご確認ください

■ 熊本県 HP「阿蘇草原応援企業サポーター認証制度」



あなたの応援で
この美しい草原を
次の千年へ。

